

平成27年度第5回市民活動団体支援制度審査会

開催日時 平成28年2月15日(月) 午前10時から

開催場所 セイセイビル4階 403会議室

出席者

(委員) 中川委員、北浦委員、宮西委員、谷野委員、東委員、坂本委員

(事務局) 八重市民活動推進課長、坂谷市民活動推進センター所長

案件1 補助金交付確定にかかる事業報告書審査

(最初に事務局より事業報告概要説明)

団体番号4 アトリエくじらのクー

事業名「ハンディキャップを持つ子どもの為のワークショップ」

【事務局】 8月8日と9日に、花のまちづくりセンターふろーらむにて開催しました。定員15名のなか、8日は16名、9日は17名の方が参加され、手の動きを備えた紙粘土木工造形を作ったり、大きな画用紙に花畑をイメージした色遊びをしたりされ、事業後は、ふろーらむのロビーで完成品展示を行っております。当初、備品費として工具のサンダー購入分として21,600円を計上しておりましたが、2万円を下回ったため消耗品に移り、結果的に消耗品費が19,219円増えております。また、熱中症対策として飲料を購入したことと、予定より多くの場所にチラシ等を送付したことによる支出の増加もあり、総事業費は当初予算額より1,189円増額の12万1,189円となり、支援金額は交付決定額どおり6万円となっています。

団体番号4 生駒少年少女合唱団

事業名「みんな集まれ♪ファミリーコンサート」

【事務局】 12月19日土曜日に、図書館で行われました。140名が参加され、童謡や民謡、全員が歌えるクリスマスソングなど大人からお子様まで楽しめる内容でした。また、事前に当日出演する児童を公募したところ、定員10名を超える15名の方が応募され、合同練習を経て、事業当日に出演者として参加されました。収支ですが、交付決定額が希望額を下回ったために、楽譜の購入数を減らしたりするなどして支出をおさえ、総事業費は当初予算額より6万3,704円低い24万2,044円となりました。交付決定額は125,217円ですが、事業費が下がったため交付決定予定額112,568円

となっています。

団体番号10 鹿ノ台納涼祭実行委員会

事業名「地域ぐるみ鹿ノ台納涼祭」

【事務局】 8月14日15日に、鹿ノ台中央公園及びその周辺にて行いました。今年度は、他市事例を参考に事故防止計画を作成し事故防止に備えられました。支出項目につきまして、申請時には旅費がありませんでしたが、打合せ時の1,000円が追加計上となりました。また、委託料について、事故防止のために、より安定した舞台設置のため業務委託したこともあり50,807円増えております。これにより、総事業費は当初予算額より16万3,590円増額の405万2,090円となり、交付確定予定額は交付決定額どおり50万円となっています。

団体番号13 生駒聖天さんどう会

事業名「宝山寺 お彼岸万燈会 つなごう心の灯りと絆の灯り」

【事務局】 9月22日(火)に前夜祭、23日(水)に万燈会を、宝山寺参道一体で実施し、約2,000人が来場しました。1日開催による会場混雑による安全面の確保という前年からの課題を検討され、今回は、プログラムを2日に分けて人を分散させられました。収支について、報償費ですが、万燈会当日に出演する劇団員が無償で事前準備に協力されたこともあり90,000円減額、続いて消耗品費ですが、協賛企業用の提灯の作成代として70,000円増額、委託の一部をボランティアで行い20,000円が減額するなどして、総事業費は当初予算額より31,335円減額の40万2,215円となり、交付確定予定額は、交付決定額どおり14万6,300円となっています。

団体番号14 いこま婚育プロジェクト

事業名「婚育基礎講座、婚育サポーター説明会&笑顔写真」

【事務局】 9月27日(日)に生駒山麓公園で行い、定員30名中10名が参加され、結婚教育の基礎について学んだ後に撮影会を行いました。収支についてですが、参加者が少なかったことによる収入の補てんとして自己財源から充当しております。支出について、当初、参加者への写真郵送代など通信運搬費として5,920円を計上していましたが、事業後も結婚教育の講座を受講された参加者が多く、手渡しで対応できたこともあって0円の実績となっております。総事業費は当初予算額より5,555円減額の12万3,205円となります。交付確定予定額は、交付決定額64,380円より2,778円減額

の61,602円となっています。

団体番号15 高山盆まつり実行委員会

事業名「高山盆まつり」

【事務局】 8月14日（金）に高山竹林園で行い、1,000名を超える方が参加されました。今年度は地場産業の紹介として、小学生による茶筌のPRを行うなど前年からの課題に取り組みました。収支についてですが、委託料と消耗品費は支出を抑え、全体的に支出が減って、総事業費は当初予算額より48万3,413円減額の198万6,587円となり、交付確定予定額は交付決定額どおり50万円となっています。

団体番号26 特定非営利活動法人 ぷろぼの

事業名「生きやすくなるヒント～大人の発達障害。精神障害の方へ～」映画上映会・講演会

【事務局】 こちらの団体は変更申請をしている団体です。当初は、7月と3月に上映会と講演会を予定していました。市民の選択届出の状況を受けたことと7月実施事業での支出増加もあり、3月実施予定の事業を取りやめ7月のみに変更です。3月実施分については、マイサポ以外の助成金を使って実施しようと活動をしていましたが、条件に合う助成金が見つからず、来年度の実施に向けて検討しているとのこと。なお、7月の事業は19日日曜日に南コミュニティセンターせせらぎの小ホールで行い、映画上映会と講演会を実施し、会場定員120席を超える137名が参加されています。収支についてですが、変更された箇所がございます。主な変更点は委託料で、当初使用料として計上していた費用の一部が、実際は委託業務に該当するため、科目を移動しております。また、通信運搬費についても実際は郵送を手渡しにするなどしてかかっていなかったため、総事業費は当初変更申請時より2,409円減額の27万1,591円となり、交付確定予定額は交付決定額通り94,049円となっています。

以上7団体の説明を終わらせていただきますので、各団体の内容につきまして、ご審議いただきますようお願いいたします。

【中川委員】 まず最初に、今、説明していただいた分の中で、各委員からコメントをいただきましょうか。宮西委員、どうぞ。

【宮西委員】 今回、例年申請されている7団体で、新規のところがなく、確定につい

ては、この通りでいいというのが率直な感想です。意見としましては、いこま婚育プロジェクトは、活動の内容をよく知らない市民の方も多いのか、参加者が10名というのはちょっとさみしいかなと思います。後、特定非営利活動法人ぷろぼのですが事業収入、参加費500円とした割には135名とたくさん来られて、PRを頑張られたのだと感じました。

【中川委員】 ありがとうございます。それでは東委員、どうぞ。

【東委員】 私の方も、全体としてこの通りの交付確定で良いかと思います。感想としては、まずアトリエくじらのクーですが、課題のところにチラシ配布、ポスター掲示などが出来る施設が少ないという感想をお述べなんですが、チラシは結構配っておられるんです。2,000部を印刷と書いてあって、いろいろな施設が書いてあるので、2,000部配っておられるけれど、1つ後ろのページには協力施設が少ないと書いておられるのは、どのような状況であったのか少し気にかかるところです。それから鹿ノ台納涼祭実行委員会は、報告書の中に、鹿ノ台の高齢化率が37.7%と書かれておられ、相当高い状況が見受けられます。この事業を通じて高齢化していく地域をどうしていくのかということに繋がっていただきたいと思いました。祭りをやりました、よかったですというのではなく、高齢化がかなり進んで、何か地域で関わりがあるのではないか、せっかく創った地域住民のネットワークを役立ててくれたらというふうに思ったところです。それから、いこま婚育プロジェクトはやはり費用対効果が少し気になります。10組しか来られなくて写真撮影でというようなせっかくいい事業をやっておられるけれど、お金をかけた割にはちょっともったいないなと思います。特に気になったのは印刷製本で600部のチラシ、デザイン料を含むで5万円というのが、少し高過ぎるのではないかという気がします。本当にPRだったら、写真を撮ってあげるからおいでよということで、人を呼び込むという手法はやはり限界があるのかなと、来年以降も応募されるのであれば、違う手法で、もう少し婚育についての啓発と言うか、そういうふうに取り組んでいただけたらと思いました。特定非営利活動法人ぷろぼのも、初めての大型事業ということで、7月のみの実施になったわけですがけれども、この上映会の狙いが、健常者の方に障がい者のことについて理解してもらおうという上映会だったのか、それとも障がい者の方に障がいを持った人でもこんなに頑張っているの、僕も頑張ろう、私たちも頑張れるというという上映会だったのか、どちらを狙っていたのか、もしくは、両方狙っていたのかも知れませんが、この報告書からは、何を狙いにして、それをどう評価されているのかというのが、見えにくいと思いまし

た。その辺を絞っていかれると、例えば120人のキャパのところ、130人も来て慌てたという雰囲気は報告書から見受けられますが、大体来ていただける方の数が読めたりするのではないかと思います。

【中川委員】 ありがとうございます。では谷野委員、どうぞ。

【谷野委員】 全体的にこれでいいのかなと思います。ちょっと感じたのは、収入が少なかったのに、賃金が無償になったりしているところもあるのですが、少ないから、じゃ、無償ですわというのでは何か申しわけないのかなという感じです。その点、どのような方法がとれるのか、考える必要もあるかと思いました。

【中川委員】 ありがとうございます。では、北浦委員。

【北浦委員】 全体的には問題なかったかなと思っています。私も感想程度なんですけども、いこま婚育プロジェクトの費用対効果の面でもですし、人数の集まりとかも、去年も少なかったような記憶があるんですけども、本当に会の趣旨、目的と、市民に対して伝えたいとか、訴えたいこと、その辺、もうちょっと練り込まないとだめなのかなというふうにも思いました。チラシ作成が600枚で5万というのは、私もちょっと気になりました。細かいところなんですけども、生駒少年少女合唱団の保険料の単価が800円となっているんですけど、私たちがボランティアをやるときの行事保険とか活動保険というのはもっと単価がすごく低いので、そんなにかかるのかなと思います。以上です。

【中川委員】 ありがとうございます。そうすると皆さん、交付確定について金額的にはご異存はないという事でよろしいでしょうか。（「はい。」の声）

ご意見のあった、お祭りについてですが、地域コミュニティの超高齢化や少子化などは課題だとおっしゃっているのだったら、祭りを通じてどのように地域の課題に 대응しているのか、次のステップを明確に示してほしいです。例えば、災害時の要援護者リストを作る登録のきっかけづくりをしていきたいとか。そうなると、要援護者リストを作るためのもうすこし踏み込んだイベントを考えられるのではないかと、いろんな発展形を考えられると思う。つまり、地域単位の総合的な防災力、防犯力、教育力、福祉力を高めていくためのシステム作りのきっかけとして祭りをして、次のステップにできるはず。次の提案を持ってきていただきたいと思います。それから、費用対効果の話が出ましたけど、実績の出し方を工夫したらどうでしょう。小さな催しの場合は、活動指標として総入場者数というのを出しているのでもいいです。数字も把握しやすいと思います。

大きい催しの場合は、参加人数をしっかりとカウントするとか。あるいは入場整理券みた

いなものを配るなど、やり方を考えていただければどうでしょう。また、いわゆる活動指標でもいいので母数に対してこれだけ来てるという比率を求めてはいかがですか。先ほどの特定非営利活動法人ぷろぼの場合なら、例えば生駒市内における発達障がい者数は福祉担当が把握している場合ではこれだけいらっしゃる、その母数に対して何%は来てほしいとか。そういうデータの捉え方をちょっと意識してほしいという気がしました。参加者が減っても構わないので、パーセンテージ上がってよかった。そういうふうに指導していただければうれしいです。

【事務局】 はい。

【中川委員】 私の方からはそれだけです。それでは、これについては承認するという事によろしゅうございますね。

【事務局】 少し補足説明をさせていただいてよろしいでしょうか。

【中川委員】 はい。

【事務局】 北浦委員からのご指摘の生駒少年少女合唱団の保険ですが、活動の内容からボランティア保険ではなくて、スポーツ保険が適しているとのことで、スポーツ保険に入っておらず、単価が800円です。ただこれは年間通じての構成員の保険になるので、マイサポの支援対象経費ではありません。いこま婚育プロジェクトですけれども、活動を始められたところで、まだこれから実績を積み上げていかれるのかなと思っています。らぽーとの登録団体にもなっておられ、このマイサポ以外でも関わりを持たせていただいています。特定非営利活動法人ぷろぼの事業は、対象者としては当事者及びその関係者の方となっています。実績の出し方という時点では、平成26年度に行った申請書改定で、団体のカタに作成いただく事業計画書の中に社会の課題をどう捉えていますかという項目を追加し、記載いただくようにしています。会長からご指摘あったように、本来ならば、事業ごとに評価指数というのは、変わってくるものだと気づきました。この点については申請書作成段階から、団体の皆さんとお話しをさせていただき、設定するとともに、実績報告の段階では、申請時の記載内容に合わせた、それぞれの事業内容に沿った実績ということで、進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

【中川委員】 それでよろしいですか。その方向でまとめておいてください。

【事務局】 はい。

案件2 アンケートの結果について

【中川委員】 アンケート結果が出ておりますので、それのご説明をお願いします。

【事務局】 はい続きまして、案件2、アンケートの結果について説明をさせていただきます。昨年12月10日から今年1月15日の間にマイサポいこまに関しましてアンケートを実施させていただきました。発送させていただきましたのが183団体、宛先不明で返ってきたのが4団体、回答団体数が91団体、回答率が50.8%となっております。この内容から少し特徴的なものを報告させていただきたいと思います。

問1、あなたの団体の活動分野ということで、これは前回のアンケート、平成22年に実施したアンケートとあまり差異はなく、子どもの健全育成が一番多くなっております。

問2、あなたの団体の活動を始めて何年になりますかということでは、6番目の20年以上の団体が36%と一番多くなっております。

問3、あなたの団体の会員数は何人ですかということで、一番多いのが10人から30人未満が33%、5人以上30人未満の団体が57%と過半数を超えております。

問4、あなたの団体は会則などを有していますかという質問につきましては、84団体、92%の団体が会則を有しているということで、一定マイサポ団体となつていただく条件は満たしておられるのかなと思っております。

問5、同じく団体の会員名簿を有しておりますかという質問については、「はい」の団体が86団体、95%となっております。

問6、あなたの団体の年間の活動経費はどれぐらいですかという質問につきましては、一番多いのが1番、27団体30%が10万円未満、20万円未満が44%、30万円未満の団体が合算して53%ということで、問3と問6を合わせると、非常に小規模で予算額も少ない団体がやはり過半数を占めているというふうに見えております。しかし、この中でも11番、100万円以上の団体が18団体いらっしゃいます。今回、このアンケートを送付した団体には、既に市との協働事業などを実施しておられる団体もあります。そうした団体は100万円以上の予算規模でやっておられるなというのがここに反映していると思います。

問7、あなたの団体の主な活動の資金源は何ですかということで、一番多いのが①会費、正会員による会費が60.36%でした。続いて⑤の補助金、助成金37件、22%となっております。その下にその他記述内容というところも書いてありますが、19団体が記述内容で書いておられます。この⑤の補助金、助成金につきましては、ほとんどが生駒市からの補助金を資金源としておられるということでした。

問 8、補助金や助成金について教えてくださいということで、補助金を受けておられる団体が 28 団体、31%になっております。これにつきましては、先ほどと同じように生駒市からの補助金というのがほとんどの団体でございました。補助金や助成金について、過去 5 年間に生駒市からの補助金を受けた団体が 38 団体ということで、これには過去にマイサポをお使いになられた団体も入っておられます。この問 8 を見ますと、やはり補助金を受けずに会費のみで運営している団体が多いということが見てとれます。生駒市から補助金を受けておられるのは 29 団体となっております。

これまでが団体の今までの内容についてお伺いしたことで、次の問いからマイサポに関しての質問になっております。

問 9、マイサポいこまに申請して負担となったことは何ですかということで、一番多かったのが 6 番、報告書の作成が 18 件、17 件が支援金額が 2 分の 1 であること、また、ほぼ同じ数字ですが、16 件が申請書などの作成ということで、書類作成、⑤と⑥、合わせて 34 件という数字になっております。

問 10、マイサポいこまに申請しなかった理由をお尋ねしております。一番多かったのが、⑧その他が 27 件あります。その記述内容につきましては、その下に挙げておりますが、6 件がマイサポをよく知らないというご意見をいただきました。既に市からほかの補助金をもらっているのが 5 件ありました。つまり、これは②の事業要件が該当しないというふうな項目に本来だったら行く分がその他のところに入っていることになります。①番の団体要件が該当しないというのが、その他の記述内容からも読み取れました。事務所が生駒市内にないということでのご回答がございました。

問 11、今後、マイサポいこまへの申請をお考えですかという問いにつきましては、残念ながら 48 団体、約半分がいいえと答えておられます。

問 12、申請しようと思われる事業の総事業費額は幾らですかということ。問 11 で「はい」とお答えいただいた団体に申請しようと思われる事業の総費用が幾らですかということで、一番多かったのが③ 30 万円未満、やはりこれは 2 分の 1 補助ということを考えて合わせて年間の総事業費が 30 万円未満の団体が過半数だったということから、こういう結果になっているかと思われます。

問 13、「いいえ」と答えた団体にお伺いして、なぜ申請しようと思われないのかという質問につきましては、その他が 19 件で一番多かったのですが、その中を見ていきますと、十分資金があるという答えがその他の中に 5 件ございました。ですので、既に①を選んで

いる14件と合わせて19件が①資金が十分あるということでご返答いただいています。
③の申請手続が困難というのが、設問としては13件お選びをいただいています、さらにその他の中にも1件ほどございましたので、14件が申請手続が困難ということです。
あと、その他の中では、今の活動が手いっぱいなので、なかなか新しい制度に手を挙げる
ことができないというご意見が幾つかございました。

問14、その他の事由の記述欄がございまして、どの団体さんからも、たくさんご回答を
いただいております。その中でも、2分の1の補助率を考え直してほしいということや、
領収書など申請書、書類作成が煩雑であるという制度の改正に向けたご意見をいただい
ております。また、制度全般に対しましては、盆踊りなど一部の自治会での活動が支援して
いるのはおかしいというご意見があったり、応募している団体が毎年一緒ではないかとい
うご指摘もいただいております。また、今回のこのアンケートを通じて、来年度の申請に
向けた団体向け説明会に参加して検討したいというご意見、話を聞きたいというご意見を
新たにいただいたことは、このアンケートを実施することで団体の皆さんにも制度を改め
て知っていただく機会になったのかなと考えております。以上がアンケートの内容でござ
います。

【中川委員】 ご説明いただきましたことについて、何かご質問等ございますでしょ
うか。よろしいでしょうか。では私の方から。2分の1に関して結構抵抗のある意見があ
りますけど、僕はちょっと現場のことを分かってない世代かな。2分の1しか支援がない
だったら、すごく負担だから、しんどいというなら、始めからやめたらとも思うのです。
団体にとって、無理をしてやることはないと思うのですが、2分の1ももらえるという発
想になぜならないのでしょうか。北浦委員はどう思われますか。

【北浦委員】 そうですね。事業をやるときに、丸々その事業費の資金の当てがない場
合は、やっぱり2分の1というのは、最初から検討に入れなくて、全額補助の助成金や補
助金を検討します。

【中川委員】 ということは、全額補助の物がほかにあるので、2分の1の補助率であ
るマイサポいこまは使いにくいということですね。

【北浦委員】 ただ、その趣旨的に、本当に生駒市民全体の税金からという意味で、
そういう捉え方をすれば、事業として、税金2分の1というのもあるにはあるとは思
うんです。

【中川委員】 補助金をとらなくても会費のみでやりますという場合や、全額補助があ

ればこちらで行う場合、全額補助がなければ、3分の2、2分の1、という様に、割合が下がっていくものを使っていくということですか。

【事務局】 やはり、ご自分たちで会費を払って、そのお金で事業をしていると、負担感が大きいと思います。さらに、支援対象経費となるものについて、細かく見させていただいています。そうすると、対象に入らない経費が出てきますので、総事業費の実質2分の1よりも低くなり、団体の負担感が増します。そこで私たちは受益者負担として、参加費を徴収したらいかがでしょうかと声をかけるわけですがけれども、団体の方からは、たとえば100円でももらうと、それに見合ったサービスや事業の提供となって、その一歩も踏み出しにくい、無償でやりたいというご意見を伺います。

【谷野委員】 でも、2分の1いただけるということと、やりたい事業を皆さん、されていくわけですね。その資金的に、自分たちだけじゃなくて、やはりもっともっと外にアピールしていただいて、協力していただいたり、寄附をいただいたりとか、そういうふうにしていかないと、事業が定着したり発展したりしていかないのかなということがあるので、ちょっと発想の転換も皆さんにさせていただけるような、何かちょっとレクチャーをしていったらどうかなと思います。あまり関係のない話かも知れないですが、介護保険は今まで1割負担じゃないですか。もうちょっと所得の高い人がもう1割負担して、2割になったときに、何かケアマネージャーたちは、高くなったと思っているけれど、8割も負担してもらっているという発想の転換をすると、そうなんだと皆さんおっしゃってくださいたりもするので、その視点の説明をもっともっと活発にやっていただけたらなと思いました。

【事務局】 ありがとうございます。

【谷野委員】 あと、ちょっとアンケートの集計なんですけど、できたらちょっと同じものだけ集めていただけると、いいかなと思いました。

【事務局】 その他の事由記述のところでですか。

【谷野委員】 はい。

【事務局】 分かりました。ありがとうございます。今の谷野委員のご指摘、寄附など多様な活動資金の調達につきましては、来年度のマイサポ団体の説明会を3月4日、5日にさせていただきまして、その翌週に大阪ボランティア協会の方に来ていただいて、資金循環の講座の開催を予定しています。NPOが事業を実施する上では、会費だけではなくて、寄附金や賛助会費、行政の補助金や民間の助成金、それぞれの使途に適した多様な資

金を活用して組織を運営していきましょうというお話をさせていただき予定をしています。

【中川委員】 それはいいことだと思います。

案件3 平成28年度マイサポ団体募集要項（案）について

【中川会長】 それでは、平成28年度のマイサポ団体募集要綱（案）についてお願いいたします。

【事務局】 こちらも先に郵送にて送らせていただきました募集要綱（案）と付箋のついた資料をご覧ください。昨年度からの変更箇所を説明をいたします。平成28年度マイサポいこまスケジュール関連講座の予定でございます。こちらは基本的には日程変更のみの修正となっております。新しく追加した項目はございません。続きまして、よくあるご質問の右側のページになります。こちらの上の方に、公共施設の使用申し込み記述についてというQ&Aを1つ追加いたしました。市の公共施設を予約できるかが分からず、計画を立てられません。どうすればよいですかに対して、使用する施設によっては期日前に申請できる場合があります。事業計画時にららポートまでご相談くださいというふうに記載しております。市内の公共施設につきましては、一定の条件を満たした場合に、期日前申請を受付けている施設がございます。今回、団体からの申請があった場合に、各担当課と調整を図り、それぞれのルールに従って、可能なものについては期日前申請の手続を進めてまいりたいと考えております。それと最後のページです。団体の皆さんへお願いしたいことということで、駅前でPRを追加しております。例年、駅前の改札口でマイサポのチラシを団体と一緒に配るということをしていたのですが、もう少し団体の事業内容がアピールできる場の設定ということで、選択の届け出が始まります7月1日の翌日、7月2日の土曜日に生駒駅の北側のオープンステージでマイサポいこまの周知を図るためのイベントを計画したいと考えております。この3カ所が変更箇所でございます。

【中川委員】 これにつきまして、ご質問ございますか。よろしいでしょうか。少しずつ丁寧にやってくれてますね。

案件3 その他

（事務局より次回審査会の日程の調整）

— 了 —